

専門家によるモニタリングコメント・意見【感染状況】

モニタリング項目	グラフ	1月12日 第111回モニタリング会議のコメント
		<p>このモニタリングコメントでは、過去の流行を表現するために、便宜的に東京都における第1波、第2波、第3波、第4波、第5波、第6波及び第7波の用語を以下のとおり用いる。</p> <p>第1波：令和2年4月に新規陽性者数の7日間平均がピークを迎えた波 第2波：令和2年8月に新規陽性者数の7日間平均がピークを迎えた波 第3波：令和3年1月に新規陽性者数の7日間平均がピークを迎えた波 第4波：令和3年5月に新規陽性者数の7日間平均がピークを迎えた波 第5波：令和3年8月に新規陽性者数の7日間平均がピークを迎えた波 第6波：令和4年2月に新規陽性者数の7日間平均がピークを迎えた波 第7波：令和4年8月に新規陽性者数の7日間平均がピークを迎えた波</p>
		<p>世界保健機関（WHO）は、新型コロナウイルスの変異株の呼称について、差別を助長する懸念から、最初に検出された国名の使用を避け、ギリシャ語のアルファベットを使用し、イギリスで最初に検出された変異株については「B.1.1.7 系統の変異株（アルファ株等）」、インドで最初に検出された変異株については「B.1.617 系統の変異株（デルタ株等）」、南アフリカで最初に報告された変異株については「B.1.1.529 系統の変異株（オミクロン株等）」という呼称を用いると発表した。国も、同様の対応を示している。このモニタリングコメントでは、以下、B.1.1.529 系統のオミクロン株等については「オミクロン株」とする。</p>
① 新規陽性者数	①-1	<p>新型コロナウイルス感染症陽性患者の全数届出の見直しにより、令和4年9月26日の診断分からは、医療機関及び東京都陽性者登録センターから報告のあった年代別の新規陽性者数の合計を、新規陽性者数として公表している。</p> <p>新規陽性者数は、都内の空港・海港検疫にて陽性が確認された例を除いてモニタリングしている（今週1月3日から1月9日まで（以下「今週」という。）に検疫で確認された陽性者は4人）。</p> <p>(1) 新規陽性者数の7日間平均は、前回1月4日時点（以下「前回」という。）の約11,569人/日から、1月11日時点で約15,520人/日に大きく増加した。</p> <p>(2) 新規陽性者数の今週先週比が100%を超えることは感染拡大の指標となり、100%を下回ることは新規陽性者数の減少の指標となる。今回の今週先週比は約134%となった。</p> <p>【コメント】</p>

モニタリング項目	グラフ	1月12日 第111回モニタリング会議のコメント
① 新規陽性者数		<p>ア) 新規陽性者数の7日間平均は、前回の約11,569人/日から、1月11日時点で約15,520人/日に大きく増加した。新規陽性者数は、年末年始中に一時減少したものの、再び年末前の水準に近づいてきている。この他にも、把握されていない多数の感染者が潜在していると考えられる。職場や学校等の再開に伴う新規陽性者数の動向を、引き続き注視する必要がある。</p> <p>イ) 都内では、季節性インフルエンザの流行シーズンに入っている。新年を迎え、更に警戒を強める必要がある。</p> <p>ウ) オミクロン株対応ワクチンの接種率は、1月10日時点で、65歳以上では67.2%であるが、全人口では36.8%、12歳以上では40.5%となっている。ワクチン接種の期間は3月末までとなっているため、引き続き早期の接種を呼びかける必要がある。</p> <p>エ) 小児の重症者も報告されており、5歳から11歳までの小児の接種については、初回接種とともに追加接種を、6か月から4歳までの小児の接種については、初回接種を進める必要がある。</p> <p>オ) 感染拡大により、就業制限を受ける方が多数発生しており、医療提供体制をはじめとする社会機能の低下が危惧される。医療従事者、エッセンシャルワーカーをはじめ誰もが、家庭や日常生活において、感染者や濃厚接触者となる可能性があることを意識し、自ら身を守る行動を徹底する必要がある。</p> <p>カ) 職場や教室、店舗等、人の集まる屋内では、暖房の使用中でも定期的な換気を励行し、3密（密閉・密集・密接）の回避、人と人との距離の確保、不織布マスクを場面に応じて正しく着用すること、手洗いなどの手指衛生、状況に応じた環境の清拭・消毒等、基本的な感染防止対策を徹底し、新規陽性者数の増加をできる限り抑制する必要がある。</p> <p>キ) 自身や家族等の感染に備え、新型コロナ検査キット、市販の解熱鎮痛薬等や、1週間分の食料品・生活必需品などを備蓄しておく必要がある。また、体調変化時など迷った時は相談窓口にご相談し、発熱や咳、咽頭痛等の症状がある場合、重症化リスクの高い高齢者、小学生以下の小児、妊婦や基礎疾患がある方は、速やかに発熱外来を受診する必要がある。</p> <p>ク) 重症化リスクの低い方は、まず新型コロナ検査キットで自己検査を行い、陽性であった場合は、直ちに東京都陽性者登録センターへ登録することが望まれる。陰性であった場合でも、季節性インフルエンザの可能性があるので、受診につなげる必要がある。診察や薬の処方を希望する場合は、「東京都臨時オンライン発熱診療</p>

モニタリング項目	グラフ	1月12日 第111回モニタリング会議のコメント
① 新規陽性者数		<p>センター」で受診することも可能である。</p> <p>ケ) 都が実施しているゲノム解析によると、BA.5系統の割合が、12月26日までの1週間で受け付けた検体では約54%まで減少する一方で、オミクロン株の亜系統である「BQ.1.1系統」「BF.7系統」「BN.1系統」「BA.2.75系統」及び「XBB系統」などの割合が上昇しており、これまで主流であったBA.5系統から、これら亜系統への置き換わりが進む過程で、新規陽性者数が急激に増加することに警戒が必要である。</p> <p>コ) 国は、中国での新型コロナウイルス感染症急拡大を受け、12月30日から中国からの入国者を対象に緊急の水際措置を開始し、1月8日には更に強化している。今後の感染状況に注意する必要がある。</p>
	①-2	<p>今週の報告では、10歳未満6.0%、10代7.8%、20代21.9%、30代18.3%、40代16.5%、50代14.6%、60代6.6%、70代4.5%、80代2.9%、90歳以上0.9%であった。</p> <p>【コメント】</p> <p>新規陽性者数に占める割合は、20代が21.9%と最も高く、次いで30代が18.3%となった。20代と30代を合わせた割合が、新規陽性者全体の40%以上と高い割合を占めている。今後の動向を注視する必要がある。</p>
	①-3	<p>(1) 新規陽性者数に占める65歳以上の高齢者数は、先週(12月27日から1月2日まで(以下「先週」という。))の10,002人から、今週は11,112人に増加し、その割合は10.6%となった。</p> <p>(2) 65歳以上の新規陽性者数の7日間平均は、前回の約992人/日から、1月11日時点で1,810人/日となった。</p> <p>【コメント】</p> <p>新規陽性者数に占める65歳以上の高齢者数は増加した。高齢者は、感染により既存の疾患が悪化する場合があり、入院期間の長期化や重症化リスクもあるため、家庭内及び施設等での徹底した感染防止対策が重要である。</p>
	①-4	
	①-5	<p>第6波以降、新規陽性者数の7日間平均が最も少なかった6月14日を起点とし、1月1日までに都に報告があった新規の集団発生事例は、福祉施設(高齢者施設・保育所等)3,239件、学校・教育施設(幼稚園・学校等)162件、医療機関430件であった。</p> <p>【コメント】</p> <p>今週も複数の医療機関や高齢者施設等で、施設内感染の発生が報告されている。また、医療・介護従事者が欠勤せざるを得ないことも、施設運営に影響を与えるため、従事者や入院患者及び入所者は、基本的な感染防止対策を徹底するとともに、ワクチン接種を一層促進する必要がある。</p>

モニタリング項目	グラフ	1月12日 第111回モニタリング会議のコメント
	①-6	都内の医療機関から報告された新規陽性者数の保健所区域別の分布を人口10万人当たりで見ると、都内全域に感染が広がっており、特に、区部の中心部が高い値となっている。
② #7119 における発熱等相談件数		#7119の増加は、感染拡大の予兆の指標の1つとしてモニタリングしてきた。都が令和2年10月30日に発熱相談センターを設置した後は、その相談件数の推移と合わせて相談需要の指標として解析している。
	②	<p>(1) #7119 における発熱等相談件数の7日間平均は、前回の176.1件/日から、1月11日時点で148.0件/日に減少した。また、小児の発熱等相談件数の7日間平均は、前回の34.0件/日から、1月11日時点で30.7件/日となった。</p> <p>(2) 都の発熱相談センターにおける相談件数の7日間平均は、前回の約6,183件/日から、1月11日時点で約5,200件/日に減少した。</p> <p>【コメント】 #7119 における発熱等相談件数及び都の発熱相談センターにおける相談件数は、依然として高い値で推移している。発熱相談センターでは、今後の相談件数の更なる増加に備え、体制を強化している。</p>
③ 検査の陽性率 (PCR・抗原)		PCR検査・抗原検査（以下「PCR検査等」という。）の陽性率は、感染状況をとらえる指標として、モニタリングしている。なお、抗原定性検査キット等による自己検査で陽性となり、東京都陽性者登録センターへ登録した方は、陽性率の計算に含まれていない。
	③	<p>行政検査における7日間平均のPCR検査等の陽性率は、前回の42.1%から、1月11日時点で37.8%に低下した。また、7日間平均のPCR検査等の人数は、前回の約8,849人/日から、1月11日時点で約25,790人/日となった。</p> <p>【コメント】 ア) 検査の陽性率は、前回の42.1%から、今回は37.8%と、依然として高い値で推移している。 イ) 症状があるにもかかわらず検査を受けない、あるいは自主検査で陽性と判明したにもかかわらず登録をしないなど、報告に表れない感染者が多数存在していることが予想される。新規陽性者数や陽性率の数値の評価には、十分な注意が必要である。 ウ) 「濃厚接触者」及び「有症状者」となった場合に備え、抗原定性検査キットを事前に薬局等で個人購入し、備蓄しておくことが望ましい。</p>

モニタリング項目	グラフ	1月12日 第111回モニタリング会議のコメント
		エ) 東京都陽性者登録センターでは、都内在住の医療機関の発生届の対象者以外で自己検査陽性の方又は医療機関で陽性の診断を受けた方の登録を24時間受け付けており、今週報告された人数は34,738人であった。

専門家によるモニタリングコメント・意見【医療提供体制】

モニタリング項目	グラフ	1月12日 第111回モニタリング会議のコメント
	医療提供体制の分析（オミクロン株対応）	<p>オミクロン株の特性に対応した医療提供体制の分析（データは前回→今回）</p> <p>(1) 新型コロナウイルス感染症のために確保を要請した病床の使用率 56.5% (4,120人/7,291床) →56.3% (4,105人/7,291床)</p> <p>(2) オミクロン株の特性を踏まえた重症者用病床使用率 34.2% (131人/383床) →36.3% (139人/383床)</p> <p>(3) 入院患者のうち酸素投与が必要な方の割合 11.1% (473人/4,271人) →12.4% (530人/4,278人)</p> <p>(4) 救命救急センター内の重症者用病床使用率 75.3% (492人/653床) →81.3% (536人/659床)</p> <p>(5) 救急医療の東京ルールの適用件数 264.3件/日→289.0件/日</p>
④ 救急医療の東京ルールの適用件数	④	<p>東京ルールの適用件数の7日間平均は、前回の264.3件/日から、1月11日時点で289.0件/日となった。</p> <p>【コメント】</p> <p>ア) 東京ルールの適用件数の7日間平均は増加傾向が続いており、過去最高値（令和4年7月24日、309.7件/日）に近づいている。一般救急を含めた救急医療体制への影響は、深刻化している。</p> <p>イ) 都内の救急出動件数は増加しており、救急搬送においては、救急患者の搬送先決定に時間を要しているため、救急車の出動率は高い状態が続いている。東京消防庁では非常用救急隊を増隊して対応しているが、救急車の現場到着から病院到着までの時間は大きく延伸している。</p>
⑤ 入院患者数		<p>重症・中等症の入院患者数のモニタリングを一層重点化するため、その時点で病床を占有している入院患者数に加え、酸素投与が必要な患者数（重症患者は含まない）をモニタリングしている。</p> <p>なお、国による全数届出の見直しに伴い、令和4年9月27日以降の自宅療養者等の数は、国への療養状況等の調査報告に準じて、直近1週間の新規陽性者数の合計から入院患者数及び宿泊療養者数を差し引いた数による推計値を用いている。</p>

モニタリング項目	グラフ	1月12日 第111回モニタリング会議のコメント
⑤ 入院患者数	⑤-1	<p>(1) 1月11日時点の入院患者数は、前回の4,271人から4,278人となった。</p> <p>(2) 1月11日時点で、入院患者のうち酸素投与が必要な患者数は、前回の473人から530人に増加し、入院患者に占める割合は前回の11.1%から12.4%となった。</p> <p>(3) 今週新たに入院した患者数は、先週の1,747人から1,749人となった。また、入院率は1.7%（1,749人/今週の新規陽性者数104,586人）であった。</p> <p>(4) 都は、感染拡大の状況を踏まえ、軽症・中等症用の病床確保レベルをレベル2（7,291床）としており、1月11日時点で、新型コロナウイルス感染症のために確保を要請した病床の使用率は、前回の56.5%から56.3%となった。また、即応病床数は6,043床、即応病床数に対する病床使用率は70.8%となっている。</p> <p>【コメント】</p> <p>ア) 入院患者数は、4,000人を超える非常に高い水準で推移している。例年、冬期は緊急対応を要する脳卒中・心筋梗塞などの救急受診が多く、各医療機関はコロナによる入院患者に加え、一般の救急受診や救急搬送への対応にも追われている。医療提供体制がひっ迫し、厳しい状況が続いており、円滑な入院調整や、回復期支援病院等への転院などを更に進めていく必要がある。</p> <p>イ) 流行入りした季節性インフルエンザの影響が高まってきている中、都は、東京都医師会等の協力のもと、発熱外来を一層強化するとともに、「東京都臨時オンライン発熱診療センター」を設置し、外来診療体制の強化を図っている。</p> <p>ウ) 入院調整本部への調整依頼件数は、1月11日時点で276件と高い値で推移している。高齢者や併存症を有する者など、入院調整が難航する事例も複数発生している。</p>
	⑤-2	<p>1月11日時点で、入院患者の年代別割合は、80代が最も多く全体の約34%を占め、次いで70代が約21%であった。</p> <p>【コメント】</p> <p>ア) 入院患者のうち60代以上の高齢者の割合は、約83%と高い値のまま推移している。高齢者の中には、介護度の高い患者や重度の併存症を有する患者が含まれており、医療機関の負担の増加要因となっている。この状況が長期化すれば、医療提供体制が更にひっ迫する可能性がある。</p> <p>イ) 都内においては、高齢者等医療支援型施設の増設や、酸素・医療提供ステーションにおける患者の受入対象の拡大などにより、高齢者の療養体制を強化している。</p>

モニタリング項目	グラフ	1月12日 第111回モニタリング会議のコメント
⑤ 入院患者数	⑤-3	<p>(1) 1月11日時点で、検査陽性者の全療養者のうち、入院患者数は4,278人（前回は4,271人）、宿泊療養者数は2,676人（同2,558人）であった。</p> <p>(2) 1月11日時点で、自宅療養者等（入院・療養等調整中を含む）の人数は101,688人、全療養者数は108,642人であった。</p> <p>【コメント】</p> <p>ア) 発生届対象外の患者であっても、自宅療養中の療養生活をサポートしていく必要がある。東京都陽性者登録センターへの登録を、都民に周知徹底する必要がある。</p> <p>イ) 都は、東京都医師会・東京都病院協会の協力を得て、30か所の宿泊療養施設を運営している。現下の感染拡大に対応するため、宿泊療養施設の稼働レベルをレベル2に引き上げ、11,509室（受入可能数8,134室）で運用している。</p>
⑥ 重症患者数	⑥-1	<p>東京都は、重症者用病床の利用状況のモニタリングを一層重点化するため、重症患者数（人工呼吸器又はECMOを使用している患者数）及びオミクロン株の特性を踏まえた重症者用病床に入院する患者数（特定集中治療室管理料又は救命救急入院料を算定する病床の患者数及び人工呼吸器又はECMOの装着又はハイフローセラピーを実施する患者数の合計）も併せてモニタリングしている。</p> <p>人工呼吸器又はECMOを使用した患者の割合の算出方法：6月14日から1月9日までの30週間に、新たに人工呼吸器又はECMOを使用した患者数と、6月14日から1月2日までの29週間の新規陽性者数をもとに、その割合を計算（感染してから重症化するまでの期間を考慮し、新規陽性者数を1週間分減じて計算）している。</p> <p>(1) 重症患者数（人工呼吸器又はECMOを使用している患者数）は、前回の49人から1月11日時点で同じく49人となった。年代別内訳は、10歳未満3人、30代1人、40代5人、50代8人、60代4人、70代18人、80代8人、90代2人である。性別は、男性33人、女性16人であった。また、重症患者のうちECMOを使用している患者は3人であった。</p> <p>(2) 人工呼吸器又はECMOを使用した患者の割合は0.03%であった。年代別内訳は40代以下0.01%、50代0.03%、60代0.06%、70代0.21%、80代以上0.17%であった。</p> <p>(3) 今週、新たに人工呼吸器又はECMOを装着した患者は39人（先週は40人）、離脱した患者は21人（同20人）、使用中に死亡した患者は8人（同9人）であった。</p>

モニタリング項目	グラフ	1月12日 第111回モニタリング会議のコメント
⑥ 重症患者数		<p>(4) 今週報告された死亡者数は197人（20代1人、50代3人、60代11人、70代42人、80代71人、90代63人、100歳以上4人、不明2人）であった。1月11日時点で累計の死亡者数は7,085人となった。</p> <p>(5) 今週、人工呼吸器を離脱した患者の、装着から離脱までの日数の中央値は7.0日、平均値は7.1日であった。</p> <p>(6) 救命救急センター内の重症者用病床使用率は、前回の75.3%から、1月11日時点で81.3%と、オミクロン株対応の分析を開始した昨年2月以来の最高値を更新した。</p> <p>【コメント】</p> <p>ア) 重症患者数は、第7波のピーク（令和4年8月13日、43人）を上回って推移しており、医療提供体制を圧迫してきている。</p> <p>イ) 新型コロナウイルス感染症は、オミクロン株が主流となって以降、重症化率や死亡率の低下が示されているものの、高い感染者数が持続すれば重症者数や死亡者数は増えていく。高齢者の重症化率が他の年代に比べ高い傾向は変わらないが、小児であっても重症化する患者が一定数存在している。あらゆる年代が重症化するリスクを有していることに注意が必要である。</p>
	⑥-2	<p>(1) オミクロン株の特性を踏まえた重症患者数は、前回の131人から1月11日時点で139人となった。年代別内訳は10歳未満6人、20代1人、30代3人、40代11人、50代16人、60代18人、70代44人、80代32人、90歳以上8人である。</p> <p>(2) オミクロン株の特性を踏まえた重症患者139人のうち、1月11日時点で人工呼吸器又はECMOを使用している患者が49人（前回は49人）、ネーザルハイフローによる呼吸管理を受けている患者が45人（同42人）、その他の患者が45人（同40人）であった。</p> <p>(3) オミクロン株の特性を踏まえた重症者用病床使用率は、前回の34.2%から、1月11日時点で36.3%となった。</p> <p>【コメント】</p> <p>オミクロン株の特性を踏まえた重症者用病床使用率は、緩やかに上昇しながら30%台で推移している。重症患者数は新規陽性者数の増加から遅れて増加してきており、引き続き今後の動向に警戒する必要がある。</p>
	⑥-3	<p>今週新たに人工呼吸器又はECMOを装着した患者は39人であり、新規重症患者数の7日間平均は、前回の4.7人/日から、1月11日時点で5.4人/日となった。</p>